







我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-1 災害復旧記念碑

調 査 日	平成 28 年 10 月 20 日	調 査 員	新 井 勲
市町村名	鴻巣市大間地内		
発生年月日	1875 年（明治 8 年）2 月・1947 年（昭和 22 年）9 月		
関連河川名	荒 川		
災害の状況	<p>荒川は大雨の度に鴻巣市の各地で洪水を起こしていて、村と村の紛争が絶えなかった。1871 年(明治 4 年)2 月に浦和役所に 55 か村の普請組合による自普請の大間築堤願いを提出し、1875 年(明治 8 年)2 月 7 日に起工し 5 月 20 日に終了した。民間人によって建設された大間堤を記念し 1897 年(明治 30 年)11 月建立 堤防の規模は長さ 500 間(900m)、高さ 7 尺～1 丈 3 尺(2.1m～3.9m)、堤敷 6 間 3 尺(11.7m)であった。</p> <p>1947 年(昭和 22 年)9 月 15 日カスリーン台風により、大間堤防は決壊し、行人樋管も破壊した。この堤防と樋管は 1948 年(昭和 23 年)5 月 30 日に復旧した。</p> <p>災害復旧記念碑として 1957 年(昭和 32 年)11 月建立。</p>		
出 典	鴻巣市史、資料編、郷土史たままみや、鴻巣市の石造物		
概 要	<p>・石碑の位置図・写真</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>大間築堤碑</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>災害復旧記念碑</p> </div> </div>		

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-2 填長淵記

調 査 日	平成 28 年 10 月 7 日	調 査 員	中野 毅
市町村名	鴻巣市大芦 1031 (旧吹上町)		
発生年月日	1824 年(文政 7 年)7 月		
関連河川名	荒川		
災害の状況	<p>文政 7 年の長雨による洪水で、明用村の荒川堤防が 80 間 (約 150m) 決壊したことにより、決壊地後に沼沢地(長池)が形成された。長池は、荒川堤防沿いに熊谷久下から鴻巣糠田付近まで、延長約 2500m、幅約 13m~39m、深さは平均約 1.5m で、深いところは約 9m もあり、その後約 60 余年存続した。</p> <p>池の影響で堤防が決壊する恐れがあったため、明治 18 年から 19 年にかけて、周辺地区の人夫や寄付金のもとに、埼玉県により埋め立てられた。埋め立ての状況を記す資料として、大芦氷川神社の境内に記念碑「填長淵記」が建てられている。なお、碑は明治 22 年 11 月建立で、当初は荒川堤防上にあったが、昭和 9 年の堤防改修に伴って、現在の氷川神社へ移転されたものである。</p>		
出 典	吹上歴史探訪、吹上町あれこれ		
概 要	<p>・石碑の位置図・写真</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">「填長淵記」(大芦氷川神社内)と碑文</p>		

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-3 水難者供養塔

調査日	H28.9.1	調査員	石島 威 鈴木 誠
市町村名	上尾市		
発生年月日	明治43年8月8～11日		
関連河川名	荒川、見沼用水		
災害の状況	<p>8日から降り続いていたところ、9日には暴風雨になり、10日午前11時には大石村領家（現上尾市内）では堤肩まであと1mまで水位が高まった。11日午前2時堤防が決壊したが対岸の川島領が決壊したため、5時頃1mほど減水した。この後応急工事で1日延べ300余人が出て決壊箇所に約5000俵の土俵を昼夜兼行で作業を行い4日間で終えた。下流の平方村西貝塚（現上尾市内）地内でも堤防が決壊し、その濁水で4反歩、深さ20mに及ぶ池が形成された。</p> <p>平方村、水に浸かった穀類を平方小学校の校庭に運んで乾かした。桑苗1万本余を斡旋した。千余間の道路修繕。上尾村では荒川、鴨川の溢水で田畑が水につかった。石橋の一部が崩壊。見沼用水では掛樋が破損。瓦葺村では元荒川の堤防決壊で広範囲にわたり水田冠水。北足立郡役所では各村長に農作物の種子の無償供与。原市町他一か村組合では92名に対し、粃24石が供与された。浦和税務署では原市町、瓦葺村の住民で収穫皆無となった住民に地租の免除を行った。</p>		
出典	上尾百年史 上尾百年史編集委員会 S47		
概要	<p>・石碑の位置図・写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> </div> <p style="text-align: center;">水難者供養塔</p>		

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-4 荒井橋記念碑



調査日	平成 28 年 10 月 7 日	調査員	中野 毅
市町村名	北本市大字高尾 584		
発生年月日	1938 年(昭和 13 年)9 月 1 日		
関連河川名	荒川		
災害の状況	<p>荒川の洪水により、荒井橋が流出した。流失した橋は、昭和 8 年に架けられた初代の荒井橋(木製の冠水橋)で、当時の状況を知る資料として、昭和 15 年に建立された荒井橋記念碑がある。</p> <p>碑文には、昭和 13 年 9 月 1 日に荒川が氾濫し前代未聞の大洪水となり、橋梁の大半が流出したとある。また、当時の石戸村長矢部次郎氏が私費を投じて復旧工事を進めたことや、この橋の維持管理について昭和 14 年に、地元大字新井地区から埼玉県へ移管されたことなども記されている。</p>		
出典	荒川 人文Ⅲ(荒川総合調査報告書)		
概要	<p>・ 記念碑の位置図・写真</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">荒井橋記念碑 と 現在の荒井橋</p>		

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-5 上武橋記念碑			
調査日	平成28年10月14日	調査員	篠塚正行
市町村名	児玉郡神川町（旧神泉村）阿久原		
発生年月	1910（明治43年）・1913（大正2年8月）		
関連河川名	神流川		
災害の状況	<p>明治43年秋に諸川氾濫堤防決潰し、家屋流亡して人畜の死傷頗る多く上部橋亦流出。大正元年6月に復旧し架橋。</p> <p>大正2年8月大洪水に襲われ復流矢の厄に遭う。大正11年10月竣成。（記念碑正面の碑文より）</p>		
出典	神泉村村誌 歴史編		
概要	<p>・記念碑の位置図・写真</p>   <p>神流川南詰上部橋に記念碑が安置されている</p>		

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-6 矢田堤塘の碑

調査日	平成 28 年 10 月	調査員	石 関 千 春
市町村名	児玉郡上里町勅使河原		
発生年月日	1713 年（正徳 3 年）～1959 年（昭和 34 年）		
関連河川名	神流川、烏川、忍保川		
災害の状況	<p>1713 年（正徳 3 年）から 1863 年（文久 3 年）までの間に 42 回の出水被害が発生した。</p> <p>また、それ以後も度重なる洪水被害に見舞われていて、特に家屋や田畑の流失が繰り返されてきた。</p>		
出典	上里町立郷土資料館研究紀要第 12 号		
概要	<p>・写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>表面</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>裏面</p> </div> </div> <p>『矢田堤塘之碑』</p> <p>矢田堤塘之碑には、過去の被災がまとめて記述してあるが、個別の水害の痕跡となるものではなく、往古以来の水災を偲び往年決潰の惨禍と先人苦闘の跡を追懐し併せて後世の師となさんこと画し建設したものとされている。</p>		

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-7 玉の池

調査日	平成 28 年 9 月 27 日	調査員	並木孝之
市町村名	星溪園：熊谷市鎌倉町 32 石上寺：熊谷市鎌倉町 36		
発生年月日	1623（元和 9 年）		
関連河川名	荒川		
災害の状況	星溪園の西方にあった土手（北条堤）が決壊、この時、石上寺が流失した。熊谷市の名勝、星溪園の池（玉の池）ができる。		
出典	熊谷市史（通史編）S59、8 月発行		
概要	<p>北条氏邦氏が荒川の堤防（北条堤）を天正 2 年（1574 年）築いた。この堤防が堅固であるようにと祈願寺として石上寺が創建された（元和 2 年：1616 年）。石上寺所在の箇所は、荒川洪水の時、常に水先となって熊谷宿まで押し出すため、ここに玉石を積み上げ、その上に寺を建てたので寺号を石上寺と称したと伝えられる。</p> <p>この洪水により北条堤が決壊し池が生じ、その池からは清らかな水が湧き出るので「玉の池」と呼ばれ、この湧き水が星川の源となった。竹井澹如が慶応年間から明治にかけて「玉の池」を中心に竹木を植え、名石を集め庭園とした。昭和初期、この地を訪れた前大徳牧宗禅師が「星溪園」と命名した。</p>		
	 <p style="text-align: center;">周辺地盤から一段高い石上寺</p>	 <p style="text-align: center;">昭和 30 年代に湧き水は枯れた「玉の池」。現在は六堰頭首工から取水し水位を保っている。</p>	

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-8 熊谷寺の黒門

調査日	平成28年9月21日	調査員	宇野 隆
市町村名	蓮生山 ^{ゆうこくじ} 熊谷寺：熊谷市仲町にある浄土宗の寺院		
発生年月日	1859（安政6年）7月25日 大洪水		
関連河川名	荒川		
災害の状況	<p>いわゆる「^{ひつじとし}未年の大水」と称して今なお古老が語り伝えている。菅沼村2か所、広瀬1か所、熊谷南5～6か所、久下東竹院1、久下長土手、大曲等3か所が決壊。濁水が宿内に入り、^{ゆうこくじ}熊谷寺の黒門の扉を船に仕立てて2階に漕ぎつけたという。筑波町会所に1.1m位浸水。8月13日には2度目の洪水、横町口から新宿まで南裏の家は床上まで水上がる。</p>		
出典	熊谷市史 S38.4月発行、熊谷市史（通史編）S59.8月発行		

概要



この「^{ひつじとし}未年の大水」では濁水が熊谷宿内に入り、^{ゆうこくじ}熊谷寺の黒門の扉を船に仕立て、2階に漕ぎつけたという。

我が町の災害アーカイブス 調査表 No. 4-9 決潰の跡記念碑

調査日	平成 28 年 9 月 21 日	調査員	宇野 隆
市町村名	決潰の跡：埼玉県知事 栗原 浩 （熊谷市久下新田地先の堤防天端）		
発生日	1947（昭和 22 年）9 月 15 日 カスリーン台風		
関連河川名	荒川		
災害の状況	マリアナ群島に発生したカスリーン台風は 13 日～15 日には、各地測候所開設以来の降雨量を示したため、荒川地先、熊谷市久下では 100m にわたり大決壊となり、各方面で甚大な被害があった。熊谷観測所で 338mm を記録。床上浸水 200 戸、床下 1,600 戸、被災人口 6,000 人。「決潰の跡」記念碑建つ。		
出典	熊谷市史 S39. 4 月発行、熊谷市史（通史編）S59. 8 月発行		

概要



現在の川表

碑背

・・・豪雨は 15 日夜に至るもやまず風速相加わりて、猛烈を極めすでに前日より警戒水位を突破して危険状態に陥った。本組合は地元熊谷土木工営所及び警察署並びに各水防団・地元民等の応援を受け官民一体となって悪条件の下必死の水防作業を展開したのであるが、その苦渋もむなしく濁流はうずを巻き氾濫凄惨を極め全く手のほどこすすべもなかった・・・